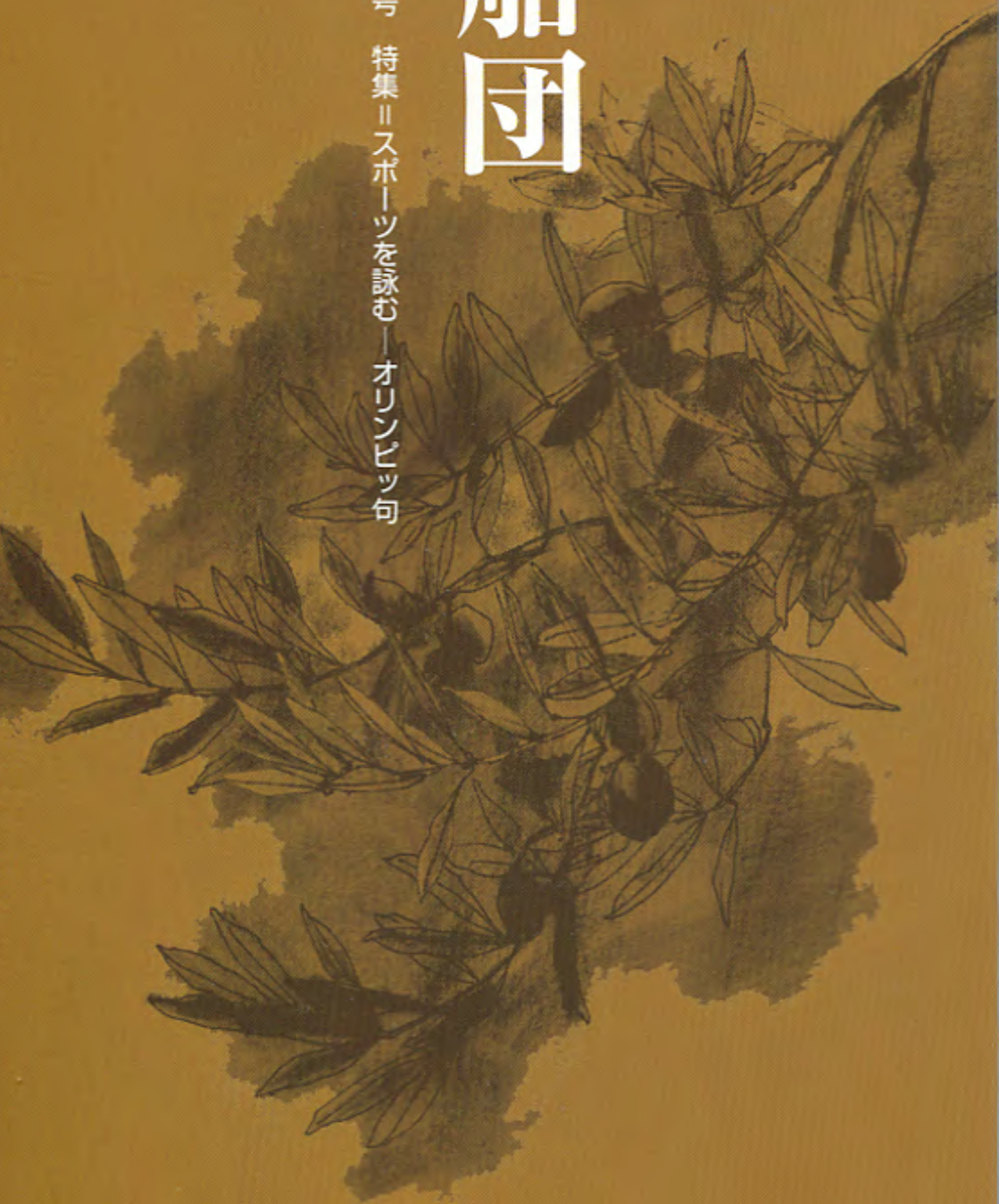


# 船団

●第95号

特集Ⅱスポーツを詠むーオリンピック句



# 会員作品



坪内 稔典

中原 幸子

真っ白い椅子が一脚雲は秋  
チエーホフの首は細いぞ草ひばり  
かぼちゃ屋の窓は丸窓雲が寄る  
炊いている煮干しとかぼちゃ隠元も  
なんきんとかぼちゃどつちが好きですか  
灯台へとつとと下る葛の花  
夢殿へ行く日バツタによく出会う

第一章椅子にたたんだアロハシャツ  
メロン冷えああなたが悪い訳でなく  
バナナだよ天の岩戸を出てお出で  
コンチキチン僕は1歳3カ月  
夏霞 ほ、というように名を呼ばれ  
原爆忌山に頂き海に底  
ウォーターポロって何さ西瓜割る

火箱 ひろ

青梅の尻凜々と日蝕す  
カサブランカ大きな足で死んでおり  
隣席でため息をつくところてん  
京都大原胡瓜丸ごと齧りつつ  
福助のおじぎお暑うございます  
数独を埋めても埋めても埋めても夏  
夏野原ふと圏外に出してしまう

陽山 道子

かなかなの鳴いてこの世の倦怠期  
夜の秋抜け穴ひとつ部屋の隅  
拝復で始まるハガキ涼新た  
生ききつてこの百年の南瓜顔  
秋の日の大和路快速のしなり  
秋の日の百済観音笑み返し  
音読の子規の墓碑銘天高し

ふけとしこ

鵜の首が突込んでゆく巴里祭  
前に行く皆さん北に虹ですよ  
百日紅在りし日のペン太きこと  
青筋揚羽竹の鳴るのは恐ろしき  
送りませう烏瓜咲く道なれば  
騒々と太き風来る盆がくる  
盆がくる影絵の兎跳んでくる

池田 澄子

泉ありもやもや黄緑青緑  
あれはかわらひわと教えてくださった  
雷神風神共に居飽いて秋暑し  
新米のわけても俳句仲間の作  
夜長し鏡に隣室の夫  
赤橙黄橙黄と秋深む  
一裸木喬し幾度振り向いても